

蜂刺され秋も注意を

行楽の秋は蜂への注意が必要だ。被害者搬送の7割以上は7～9月に集中しているが、とりわけ巣が成熟し、働き蜂が最も多い9月は刺されるリスクも高まり、兵庫県内では登山者らに重症者が出ている。きょうから3連休。専門家は「蜂の習性や正しい対処法を知っておくべき」と出かける際の注意を呼びかける。

(小川 晶、小尾絵生)

被害者搬送7割超は7～9月に集中

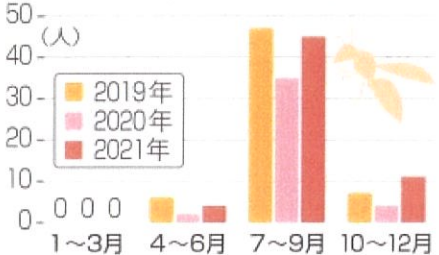


9月は要注意の蜂刺され被害。キイロスズメバチは住宅地にも生息し、危険度が高い

「8人で登山中、道に迷った。蜂に刺され、1人が動けない」。今月12日正午すぎ、神戸市須磨区横尾で119番があった。市消防局によると、登山グループを襲ったとみられるのはキイロスズメバチ。駆け付けた消防隊員3人を含む8人が刺され、4人が救急搬送された。市立医療センター中央市民病院(同市中央区)によ

専門家「習性や対処法知るべき」

●神戸市内で蜂に刺されて救急搬送された人の数(神戸市消防局調べ)



ると、うち1人の女性(78)が頭と首に30カ所、腕や脚などを含めて全身で計78カ所を刺された。搬送直後は、血圧低下などを伴うアレルギー反応「アナフィラキシーショック」や多臓器不全を引き起こし、重症だったという。同病院には16日にも、同市東灘区の山中で遊歩道の草刈り中に男性(84)が25カ所刺され、アナフィラキシーショックを起こして搬送

蜂に刺されないための注意点

(八木剛・人と自然の博物館主任研究員への取材による)

- 警戒すべきはスズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ(クマバチなどは攻撃性がない)
- 巣に近づかない。上記3種の蜂が直線的に飛んでいる場合は要注意
- 人が集団で行動していると、蜂の防衛本能を刺激する恐れがある

蜂に刺されたときの対処法

(夏秋優・兵庫医科大学教授への取材による)

- スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチに初めて刺された場合、患部を冷やして様子を見る(集中的に攻撃を受けないためにも、速やかに現場を離れることが重要)
- これまでに上記3種の蜂に刺されたことがある場合は「アナフィラキシーショック」などの恐れがあるため、このときも救急車を呼ぶ必要がある

ズメバチ、アシナガバチ、ミツバチのみ。これらの種は、巣を守る本能があり、近づくものを敵とみなして攻撃する。八木さんによると、巣の位置の把握には、蜂の飛び方が参考になる。「直線的に飛んでいるときは、近く

蜂刺されの119番通報は例年夏から秋に集中し、過去3年間の救急搬送人数は2019年7～9月が突出する。春先に女王蜂が巣作りと産卵を始め、働き蜂が増加、9月ごろにその数がピークになるという。もし蜂に刺されたら。皮膚科学が専門の夏秋優・兵庫医科大学教授によると、刺された人が重篤なアナフィラキシーショックを起こし得る抗体を持っているかどうか重要という。蜂に刺されると、人によっては特定の抗体ができる。この抗体を持った状態で毒の成分が似通った蜂に刺されると、じんましんや呼吸困難などを引き起こす恐れがあり、30分ほどで死に至ることもあるとされる。抗体ができない人もいるが、専門医の診断などを受けていない限り、抗体の有無はその場で判断できない

30分で死に至ることも

い。夏秋さんは「この10年、20年の間に刺された経験がある人は、即座に救命措置をとった方がいい」。一方、初めて蜂に刺されたときは速やかに現場を離れる。安全な場所に逃れたら横になり、保冷剤や冷たい飲料などで患部を冷やす。痛みは数時間で和らぐが、気分不良がひどいときはちゅうちよなく119番し

るためだ。イフサイクルが影響している。伊丹市昆虫館の主任学芸員野本康太さん(47)は、「手で振り払うなど素早い動作は、蜂を興奮させる。複数いた場合はその場を離れて」と助言する。